

情366「情報社会と情報倫理」

(1)moral10Intro1

ファイヤー和田知久

wada@ie.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学工学部情報工学科

達成目標

- 【達成目標】

【社会性B-1】社会を理解し、技術者としてどう生きるかの自覚を確立する

【技術者倫理B-2】技術者そして社会人として倫理・道德の重要性の理解

【協調性B-3】チームワークと協調性の重要性を修得する

- 【詳細目的】

1) 自己中心的な考え方から、家族、地域社会、日本国、世界レベルの大きな考え方に、

2) 正しい考え方をもつことで、悩まない、積極的な人へ

3) 職業・仕事とは何か(職業人としての考え)

4) 現情報化社会と現実の社会生活の理解

ひとつの事例

- 就職指導をしていて、大手人気企業でなかなか採用してくれないケースがある。
- 学生の学力、技術力、まじめさ、粘り強さ、などは結構良いように判断されるケースが多いが、不採用の理由として以下のような場合があります。
 - 1) 物静かで覇気に欠け、元気さがない
 - 2) 自己PRで自分の得意なことが伝わらない
 - 3) 応募する会社に対する希望/熱意が弱い
- これは結局「心」「考え方」の問題であり、そして「考え方」が結果として人生の形(見かけの状態)に大きく影響する事例です。
- 本講義では、考え方を良い方向に変えるきっかけを与えます。
- しかし、後は自分の実行による修養で決まっています。
- どうぞ、積極的な受講そして、それを実際の生活での実践をお願いします。

授業計画 修正 H24/4/9 版

- 第1回(4/10)
- 第2回(4/17)
- 第3回(5/8)
- 第4回(5/15)
- 第5回(5/26-27)
- 第6回(5/29)
- 第7回(6/5)
- 第8回(6/12)
- 第9回(6/19)
- 第10回(6/26)
- 第11回(7/3)
- 第XX回(8/23木曜終日)補習(1)一部得点不足の学生対象
- 本講義の狙い、倫理道德の必要性
- 職業・学生生活・自己実現・リーダーシップ
4/24、5/1は出張のため休講
- 日本と米国の考え方の比較
- 技術者倫理I
5/22は開学記念日のため休講
- **1泊の宿泊集中講義**
- 技術者倫理II
- 情報倫理
- 特許、知的所有権
- 情報産業の発展と社会
- 論述試験
- まとめ講義「どう生きるか」

宿泊講義

目的： 宿泊を通しての、学生間、学生と教員間の距離を近づけ、特に「道德面・倫理面」に関する感化を与え、学生達の健やかな成長を目指す。進路に関すること、社会に関する正しい常識をはぐくみ、広い視野の人格形成につながるようにする。

実施(案)：1年時前期科目(2単位・必修)である「情報社会と情報倫理」の約半分のコマ数(1単位分)を1泊の宿泊集中講義で実施する。

日時：平成24年5月26日(土)13:00 - 27日(日)12:00

場所：沖縄県立名護青小年の家

内容(案)：

5月26日(午後) 講義 テーマ「人生は選択の連続、自己責任、リーダーとは、成功者になるより成長者になる、社会人職業人としてどう生きるか」

5月26日(夜) ワーク:「グループ討議」

5月27日(午前) 清掃奉仕

5月27日(午前) 発表、補足講義

実施体制：和田(リーダー)、岡崎、穂苅(非常勤講師)、和田圭子(ボランティア、清掃指導)、その他の先生方および学生ボランティア

○経費:経費のほとんど(13万円程度)は工学部後援会より援助
学生には交通費の負担をお願いします。

教科書・講義のスタイル

- 【教科書】

- 1) 参考資料を適宜配付する。

- 【講義スタイル】

- 講義形式、宿題レポート
- グループ話し合い学習

- 【約束】

- 講義の開始・終わりに挨拶をする
- 出欠を講義の最初にする
- 黒板に色々と書くので、ノートを取ること

担当講師

- 和田知久（教官室：I1-605）
- 穂苅満雄（非常勤講師）、岐阜県土岐市
 - 穂苅満雄講師は文部科学省所管の社会教育団体である公益財団法人モラロジー研究所の社会教育講師であり、5/26-5/27の集中講義を担当する。（集中講義は1単位相当）
 - 5月26日は公開講座として市民一般にも公開される。



評価基準と評価方法

- **集中講義レポート** 40%
- **論述試験** 40%
- **宿題** 20%
- 過去の実績では、多数の学生が単位取得できる。
- 期末で、得点不足ものおよび講義での欠席数が多め（数回以上）の学生に対しては、補習を後期学期内に提供し、単位取得をサポートする

科学技術 と 倫理道徳

- まず、科学とは、技術とはなにか
 - 「科学とは私達に**知る**ことを教え、技術は**なす**ことを教える」
 - 科学とは森羅万象(宇宙に存在するすべてのもの)における知識を発見すること。
 - 技術とは科学で得た知識を何らかの目的に結びつけて、物を作ることまたはそのシステムを作ること。
- 科学(知識)には何の罪も無いが、技術には技術を行う人の思想や哲学によって功罪を生じる。(創造力、西堀栄三郎、講談社)
 - 「思想」:人がもつ、生きる世界や生き方についての、まとまりのある見解。
 - 「哲学」:世界や人間についての知恵・原理を探求する学問。自分自身の経験などから得られた基本的な考え、人生観。

すなわち、科学技術を担うものは、正しい考え方を持つ必要がある！

世の中には目に見えるものと、見えないものがある



自然科学や、物質文明 は見える

倫理学、哲学、道徳、生き方 は見えない

また、世の中には
時代とともに**変わらないもの**と、
流行として**変わるもの**もある



自然科学や、哲学などの科学は変わらない

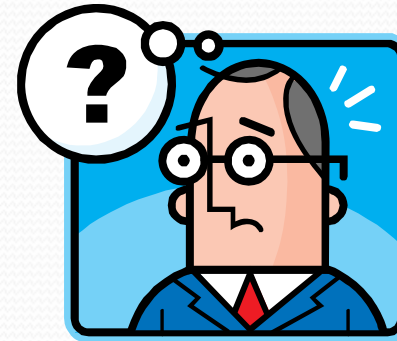
物質文明や、どう人生を生きるか？ は時代とともに
に変化する

これまで理系人間として、

- 小さな努力で、大きな成果
- 合理化で社会効率をあげる

という方針で生きてきたが。。。

何か足りない！！



- 何か職場・学校で、同僚や先輩とのトラブル
- 家庭の親子関係での問題

足りなかったものは何???

- 大きな努力で、小さな成果（これまでと逆）
- 人の精神を成長、品性を向上させ、より質の高い社会を実現する

心の成長！



- 目に見えないことが実は重要
- 家庭、 職場、 事業 がうまくいっています

技術者として人間としてどう生きるか？

	時代とともに 変わらないもの	時代とともに 変わるもの	
	科学（知） サイエンス 原理原則 WHAT WHY 知識を体系化法則を 発見	技術（徳） テクノロジー 応用技術 HOW 科学を人間生活に利用す る技 物やシステムを発明	
目に見える もの	自然科学（法則があ る） 物理学、化学、生物 学、医学、経済学 ○工学部で教育して いる部分	科学技術 物質文明 豊かさ、便利さの追求 コンピュータ工学 ○工学部で教育している 部分	<u>小さな努力で、大きな成果</u> 合理化で社会効率をあげる 量で勝負
目に見えな い もの	精神科学 倫理学、哲学、宗教、 精神文化 何のために生きる のか 知識、教わるもの 開 発	道徳 生き方 如何にして生きるべきか 知恵、実践するもの 救 済 ○こちらも大切と気がつい た	<u>大きな努力で、小さな成果</u> 人の精神を成長、品性を向上さ せ、 より質の高い社会を実現する 質

この講義のねらい

- 「精神科学」とは
 - 人間精神の生み出したもの「所産」(心理、倫理、言語、法、経済、歴史など)を扱う人文社会科学の総称。
 - 物質を扱う自然法則の因果的方法とは違う。
- 理科系を目指している皆さんは、「人文社会科学」すなわち「精神科学」には興味がないかもしれない。
- 本講義では、倫理学自体を知識として学習することはなるべくしないようにする。それらは文系の方にお任せする。
- 「道徳の実行が真の社会の幸福につながる」という観点で、倫理道徳を実践することの重要性を考える。
- すなわち
生き方、如何にして生きるべきか、社会における知恵

正しく考える能力を持ち、生き生きと社会で活躍しよう！

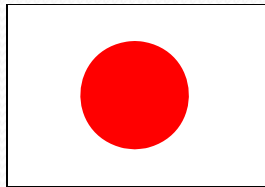
倫理道徳の必要性(1)

- (1) 物質的に豊かなだけでは、人間は幸せになれない。精神的な豊かさが叫ばれている昨今。
- (2) 「社会と密接に連携し、学習成果を社会に還元し、社会に対する責任を果たすことができる」とあるが、小さな意味では、「ルールを守り社会を乱さない」となるが、もっと積極的には「社会に貢献し、成功する」ということになる。
- このためには2つの徳(科学技術)が必要である。
- ① : 学者・技術家・企業家になる技術(徳)
- ② : 社会に認められる徳

倫理道徳の必要性(2)

- ①： 学者・技術家・企業家になる技術(徳)
- ②： 社会に認められる徳
- 「徳」：修養によって得た、自らを高め、他を感化する精神的な能力
- 「技術」：自然に人為を加えて、人間生活に役立てるようにする手段。
- 「道徳」：社会で、それぞれに善悪を判断し、正しく行動するための規範のすべて。法律とはことなり、外的強制力としてではなく、個々人の内面的原理として働くもの。
宗教とは異なり、超越者との関係ではなく人間の間を規定するもの。
- 社会を真に豊かにするには、効率化などの量的なこと以外に質の改善が必要である。
特に質の改善には、個人個人の精神的成長が欠かせない。すなわち、「徳」を高めなくてはならない。

社会の規範(ルール)



国家



法律



自分



道徳



教祖



宗教



蛇足（日本人の宗教感）

- キリスト教、イスラム教、仏教をはじめに、多数の宗教が世界にはあり、異なる宗教間で大きな対立がある。
 - キリスト教の20億人(33%)
 - イスラム教(イスラーム)13億人(22%)
 - ヒンドゥー教9億人(15%)
 - 仏教3億6000万人(6%)
 - 儒教・道教2億3000万人(4%)
 - 無宗教8億5000万人(14%)
 - その他(6%程度)
- 日本では、神道系が約1億700万人、仏教系が約8,900万人、キリスト教系が約300万人、その他約1,000万人、合計2億900万人となり、日本の総人口の2倍弱の信者数になる。
- 日本人は、聖徳太子ごろの昔より、真理は一つで、神でも仏でも、キリストでも現れ方の違いという進歩した考えをもつ

人間



家を建てる！



科学技術

学者・技術家・企業家になる技術

家を建てる技術

対象：自然物 ： 建築工学

道徳

社会に認められる徳（精神的な能力）

一人では大変！
仲間が必要！

仲間をどうつくる？
どうやって仲良くなる？

身近な、すぐできそうな「思いやり」の実行例

● 「家庭で」

1. 朝は「おはよう」、夜は「おやすみ」の挨拶をしています。
2. 家族と握手してから家をでていきます。
3. 玄関まで出て見送っています。
4. 呼ばれたら、まず「ハイ」と返事をするようにしています。
5. 家族・友人の長所を手帳に書いておいて、月に1回見直すようにしています。
6. 食事の時、呼ばれたらすぐに食卓に向かうことにしています。
7. 両親に3日に一度、ハガキを出しています。
8. 両親と離れて生活しているため、両親の写真に向かって朝晩の挨拶をしています。
9. 子供の話を聞く時に素直に耳を傾けるよう心がけています。
10. 相手が子供でも、何かをしてくれたら必ず「ありがとう」と言っています。

徳の能力で、将来大きく変わる！

- 「徳」：修養によって得た、自らを高め、他を感化する精神的な能力
- を得るには、大きな努力で小さな成長しかありません。
- すなわち、日々の心がけ実行の積み重ねが必要です！
- 修養によって品性を向上することで、あなたの運命が切り開かれ大きな成功が得られます。
 - 心づかいが変われば、→表情・態度が変わる。→行動が変わる→習慣が変わる→**性格が変わる**→品性が変わる→人生が変わる。

HW1

- 下記課題を電子メールにて提出してください。
- メールあて先： wada@ie.u-ryukyu.ac.jp
- メールタイトル： 情報倫理HW1

- 学籍番号、名前、日付、を書いて提出すること！
- 締切： 4/13（金）17:00まで それ以降は無効
- 課題
 - ①あなたには「社会に対する責任」はありますか？ないですか？理由とともに解答ください。
 - ②もしあなたが「物静かで覇気に欠け、元気さがない」人であったとしたら、これは変えてゆけますか？変えるのは不可能ですか？理系的な論理でできるだけあなたの意見を説明してください。
 - ③講義を受けての自由な意見・感想を述べてください。

メモ

1. 挨拶

挨： 撃つ、後ろからたたく、背を撃つ、強く推す

拶： 迫る

○ 自ら心を開いて相手に迫る

2. 優しいまなざし、和やかな笑顔、思いやりのある言葉、

無財の七施： 眼 施 がんせ、和顔施 わげんせ、愛語施 あいごせ

3. “こちらから挨拶して、挨拶を返してもらえないのが怖い”という人がいる。

挨拶は一方通行でよい。返答の要求は、自分の欲である。気にしない。

4. 人間性、人格

中心に品性 知力、筋力、体力、金力、など能力が回りにある。

5. 目標への向かい方

(+)能力×(+)努力×(±)考え方

→この数式は目標達成への結果が、能力・努力・考え方で変わるという事を表している。

6. 礼は素晴らしいものだ。自分の善意、誠意、それらを相手に示す。常日頃からの礼が精神の修養になり得難い徳へと昇華する。